

(別添様式1)

## 幡多農業振興センター農業改良普及課

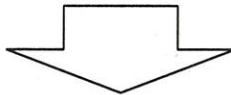
管内市町村 管内JA	四万十市、宿毛市、土佐清水市、黒潮町、大月町、三原村（6市町村） JA高知はた（1JA）						
産地の特徴 主な園芸品目	<p>管内の農業は、冬期温暖な海岸部と四万十市流域を中心とした平野部では、施設野菜（キュウリ、ミョウガ、ニラ）、露地野菜（オクラ、ブロッコリー）、花き（シュッコンカスミソウ、テッポウユリ）、水稻（コシヒカリ、ヒノヒカリ、飼料用米）、果樹（土佐文旦）の栽培が、急峻な地形の山間部では露地野菜（米ナス、ナバナ、シットウ）や特産果樹（ユズ、ブッシュカラン）など、地域の特性を活かした多様な農業が展開されている。</p> <p>近年の特徴的な動きとしては、環境制御技術の普及推進や天敵利用によるIPM技術の普及、集落営農の拡大、研修事業の活用などによる新規就農者の確保・育成、中山間地域でのユズの拡大などの新たな営農や地域の動きがある。</p>						
人員配置	平成29年度職員総数 22名（うち実務経験が3年未満の職員4名） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">農業改良普及課長 1名</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">地域営農担当 チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員5名 (担当エリア：土佐清水市、黒潮町)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：宿毛市、三原村)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">産地育成第三担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：四万十市、大月町)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">(育休1名4月～3月)</td> </tr> </table>	農業改良普及課長 1名	地域営農担当 チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：全域)	産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員5名 (担当エリア：土佐清水市、黒潮町)	産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：宿毛市、三原村)	産地育成第三担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：四万十市、大月町)	(育休1名4月～3月)
農業改良普及課長 1名							
地域営農担当 チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：全域)							
産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員5名 (担当エリア：土佐清水市、黒潮町)							
産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：宿毛市、三原村)							
産地育成第三担当 チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：四万十市、大月町)							
(育休1名4月～3月)							
普及活動の 進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点プロジェクト、総合課題、個別課題はチーム活動を行っており、チーム内で打合せを行い活動するとともに、チーム長が四半期毎にチーム会を招集し、チーム員、チーフ、課長、技術次長で進捗状況を確認し、助言・指導を受け、目標達成に向けた普及活動を進めている。</li> <li>・重点プロジェクト、総合課題については、四半期毎に職員会で実績報告を行い、振興センター内で情報を共有している。</li> <li>・第2四半期終了後中間検討会を開催し、専門技術員から助言を受け、下半期の活動内容について検討を行っている。</li> <li>・四半期毎に進捗状況を、年度末には目標の達成状況を、環境農業推進課へ報告している。</li> </ul>						

職員の資質向上 の取組状況	<p><b>●職場研修</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業振興部の主要事業について 事業目的、補助対象となる具合的な内容、対象者、事業要件、手続き方法など、事業活用に必要な基礎知識について理解を深めた。</li> <li>・農産物の流通及び市場トラブルについて 幡多管内の農產物流通の現状、市場トラブルの実態と課題、対策について、園芸連幡多駐在参与から説明を受け、具体的な市場トラブル対応策について意見交換会を行った。</li> </ul>																
	<p><b>●新任者を対象にしたOJT</b></p> <p>(新任者:採用1年目 野菜部門副担当、作物部門副担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及指導方法、環境制御技術、主要品目の栽培管理、天敵利用、病害虫診断、経営管理、養液分析手法などの基礎技術の習得に向けて、普及課全職員で助言・指導を行っている。</li> <li>・コミュニケーション能力、関係機関との連携、課題解決能力、生育調査方法、実証ほの設置、専門技術などについて先輩普及指導員に同行して習得している。</li> </ul> <p><b>●国段階研修(平成28年度)</b></p> <table border="1" data-bbox="417 1103 1406 1312"> <thead> <tr> <th data-bbox="417 1103 1251 1148">研修名</th> <th data-bbox="1251 1103 1406 1148">人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="417 1148 1251 1193">新規普及職員研修(1年目限定)</td> <td data-bbox="1251 1148 1406 1193">1名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="417 1193 1251 1238">経営分析研修</td> <td data-bbox="1251 1193 1406 1238">1名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="417 1238 1251 1283">新規普及職員研修(中国四国ブロック)</td> <td data-bbox="1251 1238 1406 1283">1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考) 平成27年度の参加人数 3名</p> <p><b>●県段階研修(平成28年度)</b></p> <table border="1" data-bbox="417 1478 1406 1665"> <thead> <tr> <th data-bbox="417 1478 1251 1523">研修名</th> <th data-bbox="1251 1478 1406 1523">人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="417 1523 1251 1590">自主企画研修</td> <td data-bbox="1251 1523 1406 1590"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="417 1590 1251 1635">・施設花き類におけるIPM技術の適応性の検討</td> <td data-bbox="1251 1590 1406 1635">1名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="417 1635 1251 1665">・水田利活用に適する栽培品目及び販売方法の検討</td> <td data-bbox="1251 1635 1406 1665">1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考) 平成27年度の参加人数 2名</p> <p>上記の他に、専門技術高度化研修や新任普及指導員先進農家派遣研修、農業担い手育成センターを活用した農業技術力向上研修などへも参加している。</p>	研修名	人数	新規普及職員研修(1年目限定)	1名	経営分析研修	1名	新規普及職員研修(中国四国ブロック)	1名	研修名	人数	自主企画研修		・施設花き類におけるIPM技術の適応性の検討	1名	・水田利活用に適する栽培品目及び販売方法の検討	1名
研修名	人数																
新規普及職員研修(1年目限定)	1名																
経営分析研修	1名																
新規普及職員研修(中国四国ブロック)	1名																
研修名	人数																
自主企画研修																	
・施設花き類におけるIPM技術の適応性の検討	1名																
・水田利活用に適する栽培品目及び販売方法の検討	1名																
その他	<p><b>●ICTの活用について</b></p> <p>平成28年度にタブレット型PCが整備され、現地での環境制御技術の研修会や病害虫の診断・情報提供、プレゼンテーションなどで活用しており、農業者からは画面が大きく見やすい、迅速な対応ができると好評を得ている。</p>																

## 評価対象課題の実績（28年度）及び計画（29年度）の概要

所属名	幡多農業振興センター農業改良普及課																										
課題名	ユズの産地化を主体とした三原村の農業振興																										
取組期間	平成28～31年度	産業振興計画課題分類	I - ③ II - ②③ IV - ①②																								
対象	三原村農業公社、三原村集落活動センター生産部（仮称（農）三原やまびこ）、新規就農者、JA高知はた三原支所柚子部会																										
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三原村は、「親・子・孫」3世代が安心して暮らせる村づくりのため、ユズの産地化、集落活動センターと連携した地域活性化に取り組んでいる。</li> <li>○三原村農業公社（村100%出資）（以下、「公社」）が自らユズを栽培し、成木に近いユズ園地を新規就農者にリースする取り組み（以下「園地リースシステム」）に対して、ユズで就農を希望する研修生の受け入れ体制づくりと技術習得を支援する。</li> <li>○既存のユズ生産者へは、青果率向上による所得向上を目指して、栽培講習会を継続して行う。自動選果機による共選体制の定着などを支援する。</li> <li>○集落活動センター生産部が始める雨よけシットウ栽培を定着させる。また、シットウ栽培終期（11～12月）には、ユズの選果作業の受託により雇用の通年化につなげる。</li> </ul>																										
平成28年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自動選果機を活用した選果体制が確立され、自家選別労力が軽減された。</li> <li>○JA柚子部会の青果率が14%から19.5%に向上し、出荷量も153tから221tに増加した。</li> <li>○農業公社の研修生が、平成29年1月に園地リースシステムを活用し就農した。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H27)</th> <th>目標(H28)</th> <th>実績(H28)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ユズ出荷量</td> <td>153t</td> <td>240t</td> <td>221t</td> </tr> <tr> <td>ユズ青果率</td> <td>14%</td> <td>20%</td> <td>19.5%</td> </tr> <tr> <td>ユズ栽培新規就農者数</td> <td>0名</td> <td>1名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>ユズ園地リースシステム利用農家数</td> <td>0戸</td> <td>1戸</td> <td>1戸</td> </tr> <tr> <td>雨よけシットウ新規ハウス導入数</td> <td>—</td> <td>1棟</td> <td>1棟</td> </tr> </tbody> </table>			項目	現状(H27)	目標(H28)	実績(H28)	ユズ出荷量	153t	240t	221t	ユズ青果率	14%	20%	19.5%	ユズ栽培新規就農者数	0名	1名	1名	ユズ園地リースシステム利用農家数	0戸	1戸	1戸	雨よけシットウ新規ハウス導入数	—	1棟	1棟
項目	現状(H27)	目標(H28)	実績(H28)																								
ユズ出荷量	153t	240t	221t																								
ユズ青果率	14%	20%	19.5%																								
ユズ栽培新規就農者数	0名	1名	1名																								
ユズ園地リースシステム利用農家数	0戸	1戸	1戸																								
雨よけシットウ新規ハウス導入数	—	1棟	1棟																								
平成28年度の主要な活動内容と実施時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユズ出荷量の増加およびユズ青果率の向上 (個別巡回指導 毎月) 公社ユズ園の樹づくり指導 (栽培講習会 毎月) JA柚子部会員への栽培指導 (現地講習会 7月, 2月) JA柚子部会員への摘果、果実への不織布被覆、剪定技術指導 (選果検討会 4月, 8月, 10月, 3月) JA柚子部会への自動選果機活用支援 (選果検討会 9月～11月) 公社への自動選果機運用支援、規格設定指導など</li> <li>○ユズ栽培新規就農者の確保 (個別随時・柚子部会講習) 研修生への栽培指導 (就農計画作成指導 9～10月) 公社研修生への就農支援 (現地説明会 6月～10月, 12月, 2月) 村と連携して就農希望者と面談</li> </ul>																										

(前頁から続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユズ園地リースシステムの確立 (検討会 5月, 9月, 12月) 経営試算等によるシステム構築への支援</li> <li>○雨よけシットウ新規ハウスの導入支援 (個別巡回 5~12月) 集落活動センターやまびこの生産部会員へ法人化と雨よけハウスの導入を検討</li> </ul>
----------	---



平成29年度の主な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○JA柚子部会の出荷量が増加、青果率が向上し農家の所得向上につながる。</li> <li>○ユズで就農を目指す研修生が確保される。</li> <li>○生産部のシットウ栽培の取組拡大のため新規ハウスが導入される。</li> </ul>														
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">現状 (H28)</th> <th style="text-align: center;">目標 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ユズ出荷量</td> <td style="text-align: center;">220 t</td> <td style="text-align: center;">310 t</td> </tr> <tr> <td>ユズ青果率</td> <td style="text-align: center;">20%</td> <td style="text-align: center;">25%</td> </tr> <tr> <td>ユズ栽培希望研修生数 (のべ人数)</td> <td style="text-align: center;">3名</td> <td style="text-align: center;">5名</td> </tr> <tr> <td>雨よけシットウ新規ハウス導入数</td> <td style="text-align: center;">1棟</td> <td style="text-align: center;">2棟</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状 (H28)	目標 (H29)	ユズ出荷量	220 t	310 t	ユズ青果率	20%	25%	ユズ栽培希望研修生数 (のべ人数)	3名	5名	雨よけシットウ新規ハウス導入数	1棟
項目	現状 (H28)	目標 (H29)													
ユズ出荷量	220 t	310 t													
ユズ青果率	20%	25%													
ユズ栽培希望研修生数 (のべ人数)	3名	5名													
雨よけシットウ新規ハウス導入数	1棟	2棟													
平成29年度の主要な活動内容と実施時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユズ栽培講習会 (毎月、7月、2月は現地検討会)</li> <li>○ユズ自動選果機の利用方法の検証と助言 (4月~翌3月)</li> <li>○新規就農者への栽培・経営指導 (4月~翌3月 (随時))</li> <li>○ユズ栽培希望研修生の掘り起こし (6月, 8月, 1~3月)</li> <li>○ユズ園リース計画見直し検討 (6月~10月)</li> <li>○ユズ栽培希望研修生への就農に向けた指導 (4月~翌3月 (随時))</li> <li>○シットウ用新規ハウスの増設検討と栽培指導 (4月~翌3月)</li> </ul>														

所内体制	果樹担当 1名、担い手・経営担当 1名、産地育成担当チーフ兼野菜担当 1名、地域営農担当チーフ 1名 合計 4名
連携推進体制の整備	<p>振興センター(以下、「普及」)・村・JA高知はた(以下、「JA」)が連携して推進チームをつくり、課題解決に向けて具体的な協議を重ねた。</p> <p>ユズ出荷量・青果率の向上についてはJAと普及が連携し、公社を含む柚子部会に技術指導。</p> <p>新規就農者と園地リースについては村・公社と普及で進めた。</p> <p>雨よけシットウ新規ハウス導入については村・JA・普及で役割分担して進めた。</p>

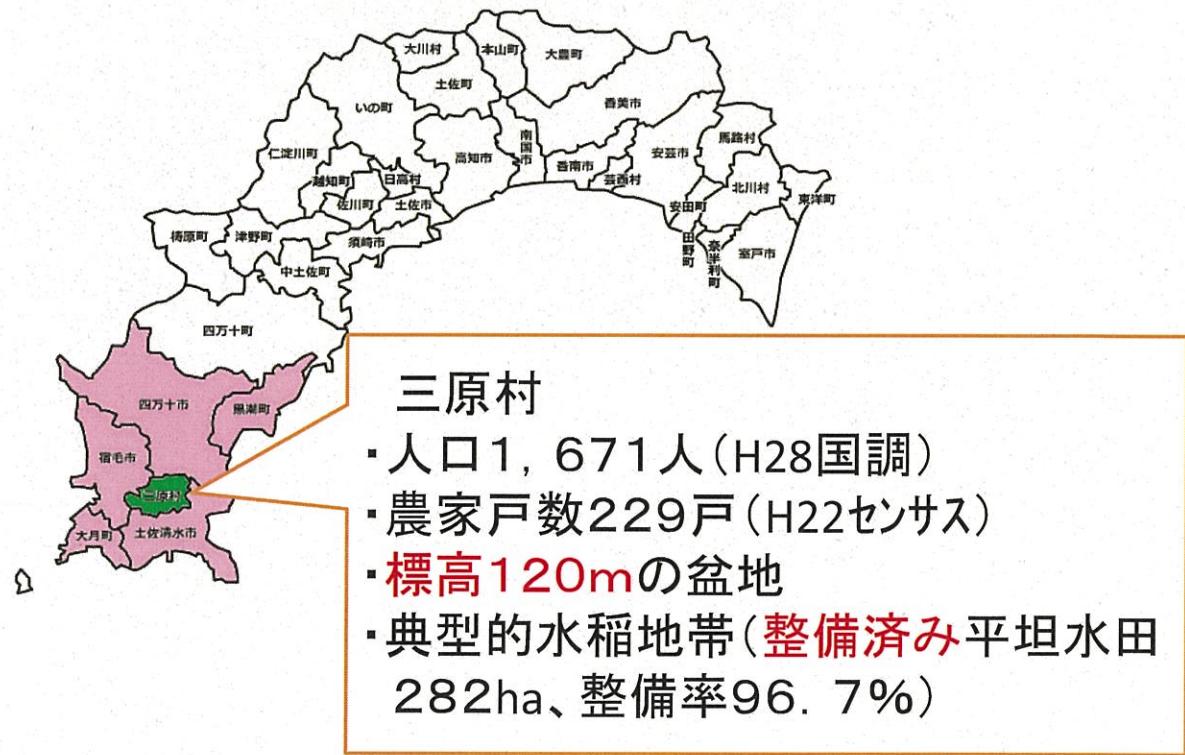
# 1. 課題名：ユズの产地化を主体とした 三原村の農業振興

(取組期間：平成28～31年度)



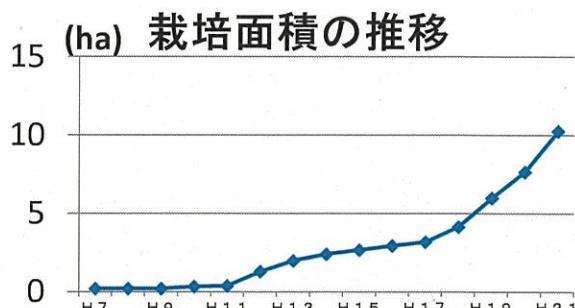
高知県幡多農業振興センター農業改良普及課

## 2. 取り組みの背景・目的



## 課題設定に至る背景1(H5～H19)

年度	産地の状況
H5	URで米価下落の想定
H7	水田へのユズ作付開始
H11	ユズで所得確保できる農家が現れる
H13	村がユズ苗木代半額補助開始(但し、水田転換園新植)
H18	産地の拡大が停滞
H19	関係機関で危機感共有(村の農業の将来) 関係機関の協議によりユズを振興品目として設定



定植3年目の生育状況

## 課題設定に至る背景2(H20～H21)

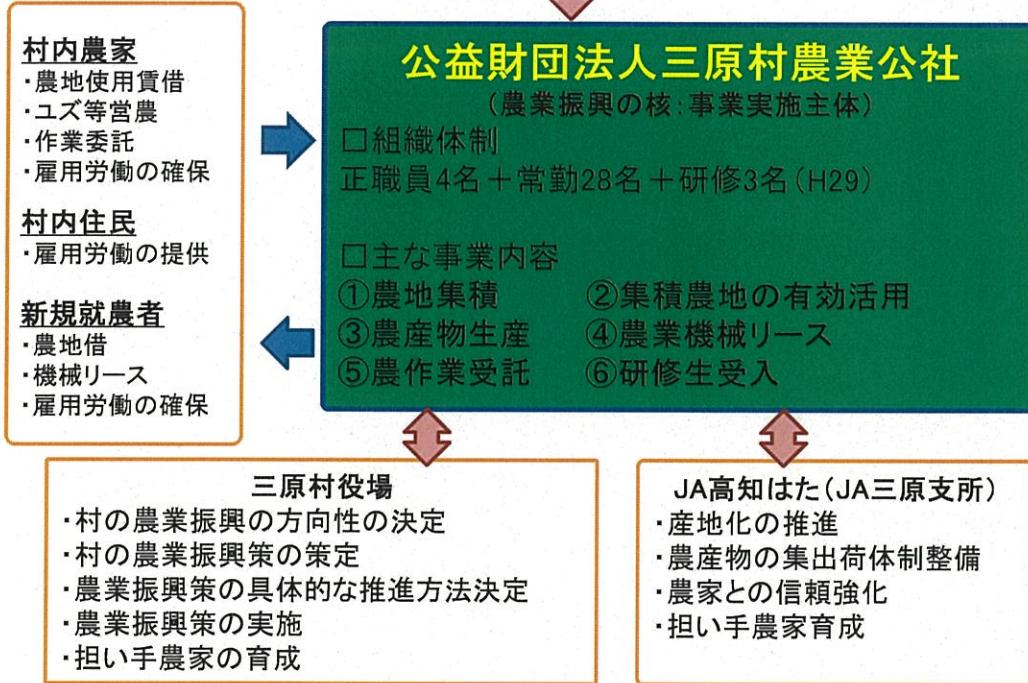
目標の明確化 「子育てができるユズ産地の育成」

- ・平坦な農地へ100ha(現農地の28%)新植
- ・100歳まで収穫できる低樹高
- ・青果栽培で10a当たり100万円販売
- ・三原村独自の支援システム構築
- ・子育てができる農業経営の確立
- ・ユズを核に地域活性化  
(ユズ生産、加工での雇用創出と販売額の向上)

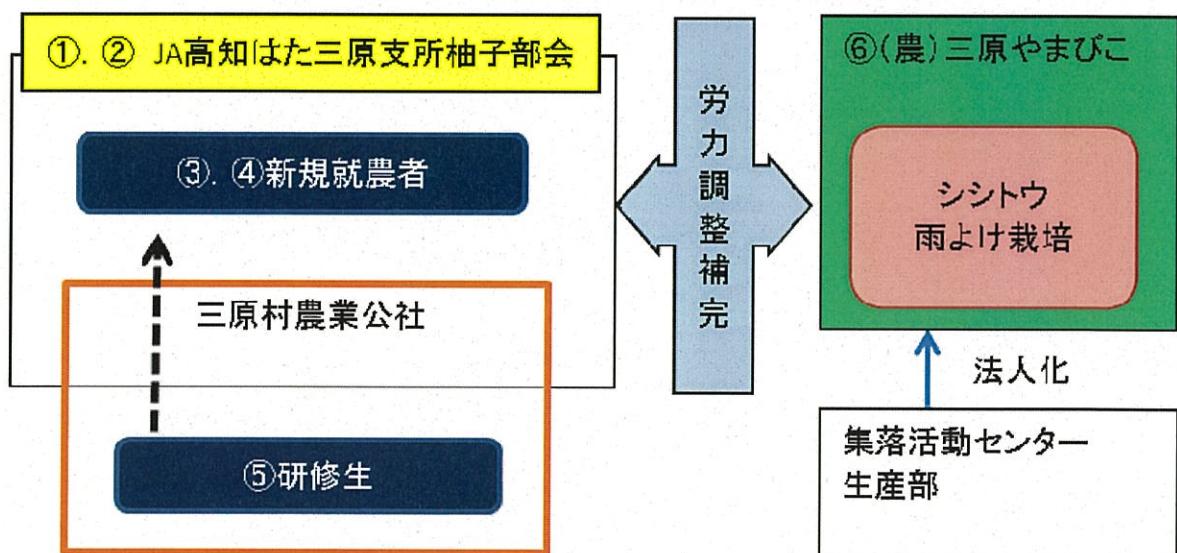
# 農業公社を核とした三原村独自の支援システムの構築

## 幡多農業振興センター

- ・コーディネーター(連携・協議)
- ・農業振興策提案
- ・補助事業導入支援
- ・営農、経営技術指導
- ・担い手農家育成



## 普及指導対象 (H28、H29)



# 所内(課内)の分担

★はチーム長

## H28年度(4名体制)

### 産地育成担当

- ①果樹部門兼水稻部門担当 ★
- ②野菜部門担当兼チーフ

### 地域営農担当

- ③経営・担い手部門兼集落営農部門担当
- ④チーフ

## H29年度(4名体制)

### 産地育成担当

- ①果樹部門担当 ★
- ②野菜部門担当兼チーフ

### 地域営農担当

- ③経営・担い手部門兼集落営農部門担当
- ④チーフ

# 主な目標

項目	H28年度	H29年度
①ユズ出荷量	240t	310t
②ユズ青果率	20%	25%
③ユズ栽培新規就農者数	1名	—
④ユズ園地リースシステム利用農家数	1戸	—
⑤ユズ栽培希望研修生数 (のべ人数)	—	5名
⑥雨よけシートウ新規ハウス導入数	1棟	2棟

# ①・②ユズ出荷量増と青果率向上

柚子部会対象の講習会

摘果



剪定



公社対象の講習会

## 公社の人才育成

職員が技術向上するとともに、指導役となる職員(技術者)の育成

樹齢に応じた、基本的な管理技術の徹底指導

## 剪定



# ②青果率向上による販売額の向上

・自動選果機を利用した出荷体制の確立



収穫期前に出荷マニュアルを検討



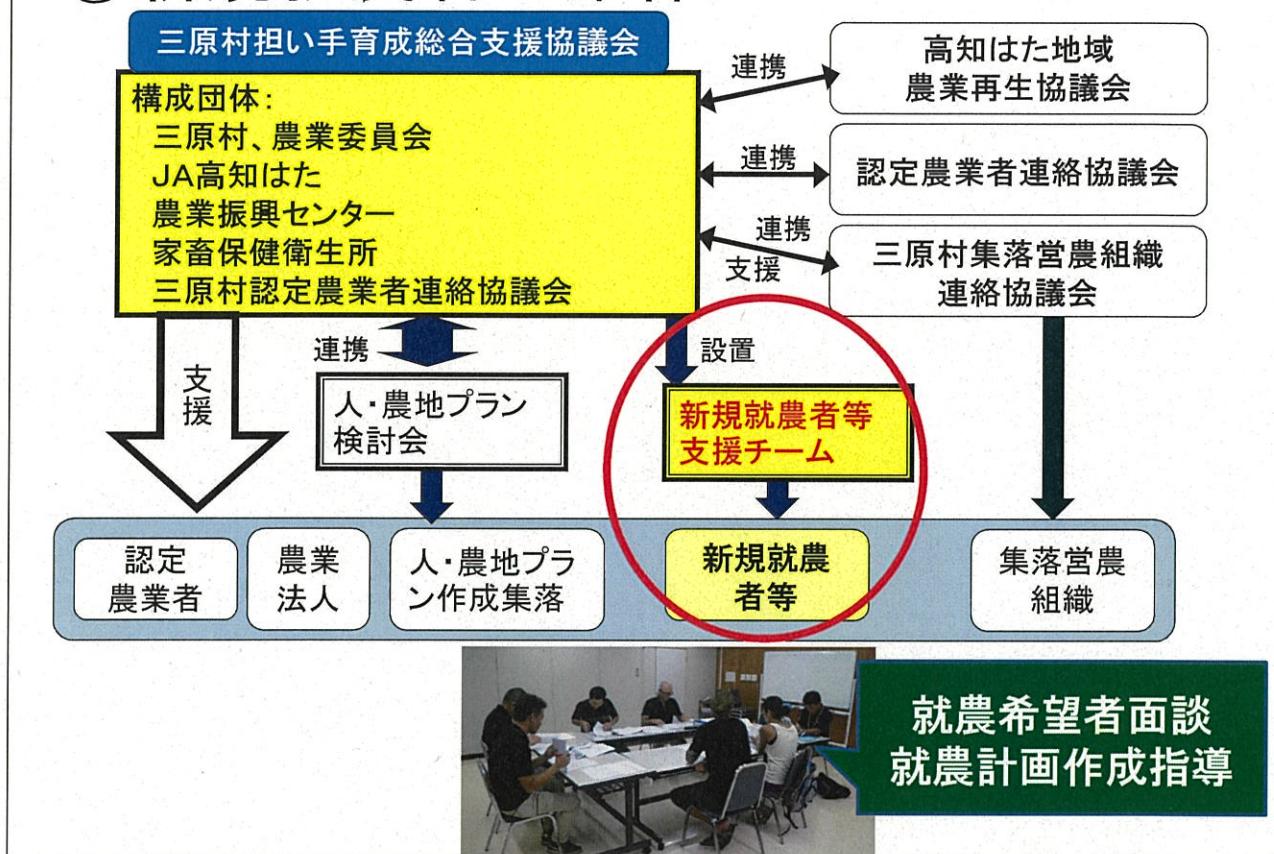
粗選果不要の選果場持込み  
(但し、生傷・腐敗は除去)



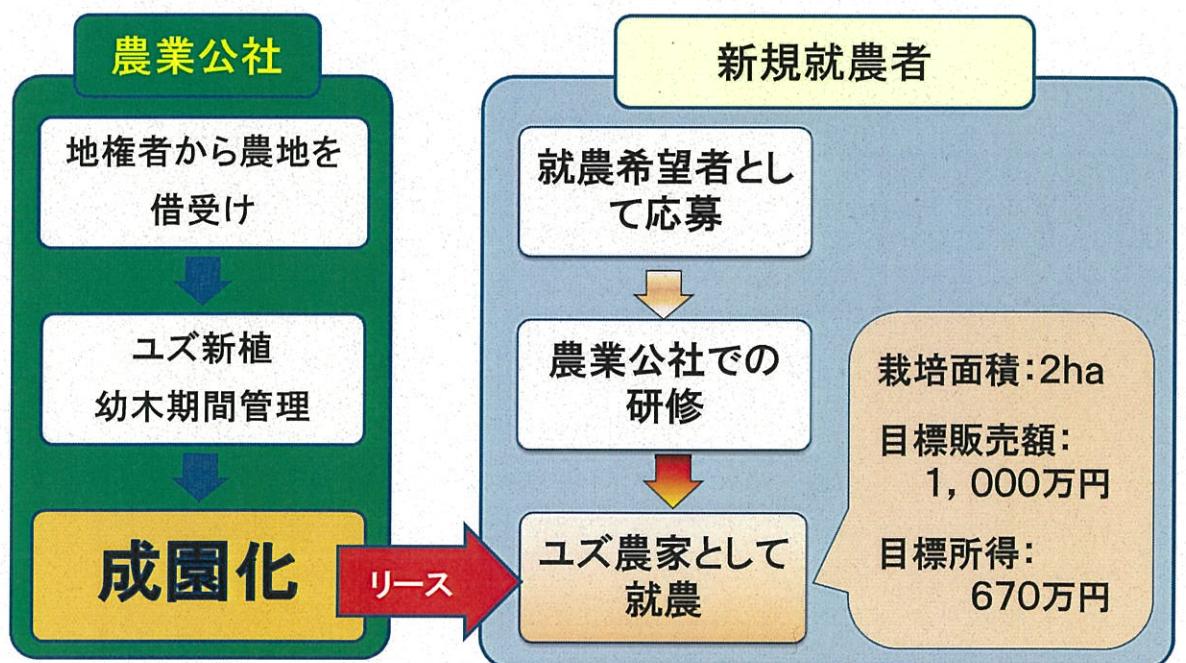
生産者の選果作業省力化

下級品混入の指摘と規格設定助言(試運転)

### ③新規就農者の確保



### ④. ⑤ユズ園リースシステムの確立

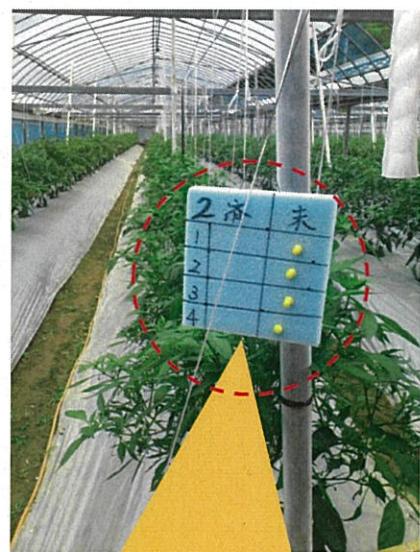


すぐに収益を確保できる園地を新規就農者にリースすることにより初期投資を軽減

## ⑥雨よけシットウ新規ハウスの導入



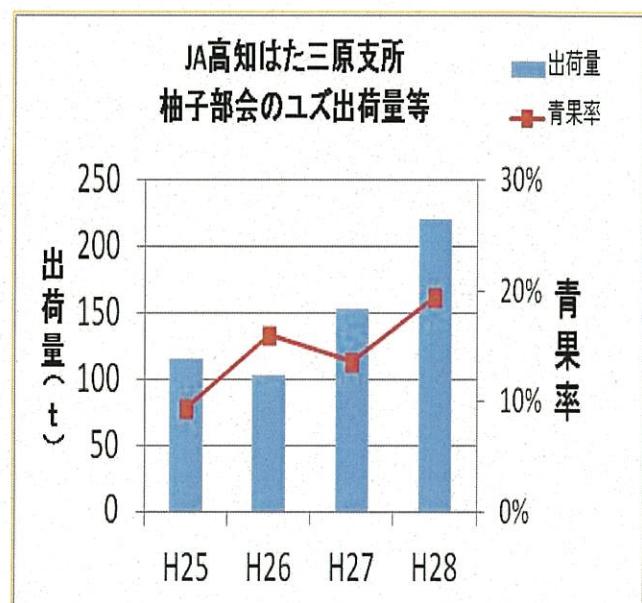
試作



初心者にも安心して収穫を任せられる  
仕組みづくり

## H28年度の目標と実績

項目	H28年 目標	H28年 実績
①ユズ出荷量	240t	221t
②ユズ青果率	20%	19.5%
③ユズ栽培新規就農者数	1名	1名
④ユズ園地リースシステム利用農家数	1戸	1戸
⑥雨よけシットウ新規ハウス導入数	1棟	1棟



# ユズ園地リースシステム利用新規就農者

## リースされた園地(新植5年後:6年生樹)



施肥作業中の新規就農者

### 残された課題

- ①ユズ出荷量の増加
- ②部会員の青果率向上

### H29目標

- ①出荷量310t
- ②青果率25%

- ⑤新規研修生の確保

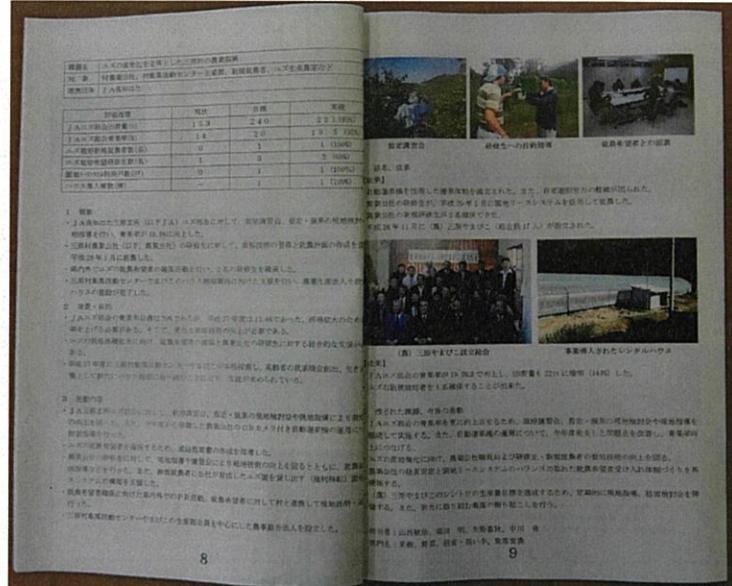
- ⑤ユズ栽培希望  
研修生数  
(のべ) 5名

- ⑥集落活動センター生産部  
の収益・雇用対策強化

- ⑥雨よけシート  
ウ新規ハウス  
導入数 2棟

# 活動実績書の作成・配布

(関係機関への配布、普及推進協議会での報告など)



## ご清聴ありがとうございました



## 平成28年度 普及指導活動実績の概要一覧

## 幡多農業振興センター農業改良普及課

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
重1 環境制御技術の普及による施設園芸産地の強化	9	炭酸ガス発生装置の導入面積率	キュウリ20% ピーマン50%	キュウリ14% ピーマン58%	△ ○	実証などを活用した增收効果の情報提供や研究会活動により、発生装置導入面積率はキュウリで3ポイント、ピーマンで10ポイント増加した。	
総1 幡多地域における新規就農者の確保・育成	20	新規就農者数 認定新規就農者数	40名 7名	30名 14名	△ ○	市町村やJA、農業公社と連携し取組を進めてきたが、新規就農者数の目標は達成できなかつた。認定新規就農者は就農計画や資金利用計画などの作成支援により目標を達成できた。	
総2 幡多地域の集落を守る！～集落宮農組織の育成と法人強化～	11	集落宮農組織数 法人組織数	54組織 9組織	57組織 11組織	○ ○	関係機関と連携し、集落座談会やアンケート調査、先進地視察を実施した結果、新たに3つの集落宮農組織が設立され、法人組織の経営発展も進んだ。	
総3 ユズの産地化を主体とした三原村の農業振興	4	ユズ青果率 新規就農者数	20% 1名	19.5% 1名	△ ○	選果機の導入効果もあり、青果率は5.5ポイント向上した。公社が育成したユズ園を貸し出す園地リースシステムの構築を支援した。この仕組みを活用し、ユズでの研修生で、初めての新規就農者が就農した。	
総4 中山間(西土佐)の農業振興	8	米ナス簡易雨上げ栽培面積・反収	32a 10t	33a 10.8t	○ ○	簡易雨よけハウスでの生育調査結果をもとに現地検討会などで推進した結果、栽培面積、反収ともに増加した。	
個1 キュウリ産地の育成	5	収量目標達成農家率(反収18t(促成))	45%	20%	△	若手生産者の勉強会や現地検討会を開催し、収量確保に向けた支援をしてきたが、害虫被害により早期に収穫を取りやめた農家も有り、目標を下回つた。	
個2 ナス産地の振興	4	系統出荷収量(普通ナス)	400t	357t	△	収量が伸び悩んでいる原因のひとつである黒枯病対策に取り組んだが、病害を抑えることができなかつた。	

課題名	チーム名 (人)	主な評価指標	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
個3 強いニラ産地の育成	2	そぐり機の事業計画に対する稼動率	70%	72%	○	講習会で稼動率の低い原因と、その対策を周知したことで、品質の良いニラの生産、出荷量の平準化への生産者の理解が深まり、稼動率は向上した。	
個4 ミョウガ産地の活性化	3	若手勉強会への出席率	50%	63%	○	勉強会や先進地視察において篤農家が情報提供することで、参加者が多くなり、熱心な討議が行われるようになつた。	
個5 イチゴ品種(おおきみ)の生産及び販売の拡大	2	部会平均反収	2. 0t	1. 2t	△	「おおきみ」は高単価で取引されているが反収が低いため、現地検討会や個別巡回指導を行い技術向上を図つたが、品種特性に応じた栽培が十分にできず、収量向上に繋がらなかつた。	
個6 競争力のあるオクラ産地の育成	5	出荷量	630t	532t	△	現地検討会やセル苗の推進を行い、栽培技術のレベルアップに取り組んだが、台風被害などもあり出荷量の目標は達成できなかつた。	
個7 大方南部地域の花き振興	3	市場事故件数	10件	5件	○	テッポウユリの灰色かび病対策や出荷物検査の実施により、市場事故を減らすことができた。	
個8 特産果樹の産地振興	3	ブッシュカクン栽培面積	675a	720a	○	新植予定地の適地の確認や栽培指導、推進体制の強化に取り組んだ結果、栽培面積は増加した。	
個9 飼料米専用品種の収量確保	3	地域標準反収達成率(反収430kg)	66%	65%	△	栽培講習会やJA広報誌で情報提供を行った結果、標準反収達成者率は22ポイント増加し、[ほぼ]目標は達成できた。	
個10 ミシマサイコの生産振興	1	2年株の栽培面積	200a	208a	○	現地検討会の実施により栽培技術の向上に努め、2年株の栽培面積は98a増加し目標を上回つた。	
個11 地域資源を活用した6次産業化の推進	3	支援3チームの販売金額	140万円	57万円	△	新加工品「鯖ねえ」の商品化や「まめにみそ」のテスト販売へ向けての支援を行つたが、販売期間が短くなつたため、販売目標は達成できなかつた。	

## 平成29年度 普及指導活動計画の概要一覧

### 幡多農業振興センター農業改良普及課

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重1 環境制御技術の普及による施設園芸産地の強化	10	炭酸ガス発生装置などの導入面積率	キュウリ14% ニラ15%	キュウリ55% ニラ48%	研修会、現地検討会、チーム会、研究会2回、実証(ほ)の設置4力所、生育調査、経営評価、事業導入支援	
総1 幡多地域における担い手の確保・育成	20	新規就農者数 認定新規就農者 数	30名 13名	43名 10名	市町村JAとの連携、募集活動への支援、就農相談、就農計画作成支援、支援チームによる面談	
総2 幡多地域の集落を守る! ～集落営農組織の育成と法人強化～	13	集落営農組織数 法人数	57組織 11法人	58組織 11法人	集落座談会、先進地研修、集落営農塾、営農計画作成支援、事業導入支援、経営管理指導、栽培管理指導	
総3 ユズの产地化を主体とした三原村の農業振興	4	ユズ青果率 研修生数	20% 3名	25% 5名	現地検討会5回、講習会10回、選果施設利用検討会、整枝・剪定モデル樹の設置、巡回指導、研修生の募集	
総4 中山間地域(西土佐)の農業振興	7	米ナス簡易雨よけ 栽培面積・反収	33a 10.8t	53a 10t	現地検討会8回、講習会5回、実証(ほ)設置1力所、 生育・天敵調査、座談会、出荷場GAP点検4回、 巡回指導	
個1 キュウリ産地の育成	7	収量目標達成農 家(促成18t／10 a)	20%	47%	現地検討会4回、講習会4回、研修会1回、実証(ほ) 設置3力所、生育調査、巡回指導	
個2 ナス产地の振興	6	系統出荷収量(普 通ナス)	357t	400t	現地検討会4回、講習会2回、先進地調査1回、巡 回指導、巡回指導、	
個3 ニラ产地の育成	2	そぐり機の事業計 画に対する稼働率	72%	80%	現地検討会2回、講習会4回、実証(ほ)設置1力所、 巡回指導、役員会、反省会、事業導入の検討	
個4 ミョウガ产地の活性化	2	収量目標達成農 家数(促成4.5／1 0a)	1戸／14戸	5戸／14戸	現地検討会4回、講習会3回、先進地調査・調査結果の分析、情報提供	

	課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
個5 イチゴの安定生産	5	平均反収(さがほのか)	3. 5t	4t	現地検討会2回、講習会2回、先進地調査2回、実証(ほ設置)2力所、巡回指導		
個6 競争力のあるオクラ产地の育成	10	出荷量	532t	621t	現地検討会7回、目標らし会3回、講習会4回、実証(ほ設置)1力所、巡回指導		
個7 大方南部地区の花き振興	1	土壌診断に基づく施肥改善	24戸	40戸	講習会3回、土壤診断4回、巡回指導、実証(ほ設置)1力所		
個8 特産果樹の产地振興	3	ブッシュカン栽培面積	720a	1020a	新植予定園巡回調査4回、現地検討会4回、栽培講習会2回、巡回指導		
個9 非主食用米・酒米の生産安定	3	地域標準反収達成者率(飼料用米)	65%	70%	現地検討会3回、栽培講習会1回、検討会3回、実証(ほ設置)1力所、JA広報誌掲載1回		
個10 薬用作物の生産振興	3	2年株の反収60kg以上の農家数(ミシマサイコ)	0戸	4戸	現地検討会1回、講習会1回、実証(ほ設置)1力所、巡回指導		
個11 地域資源を活用した6次産業化の推進	3	支援2チームの販売金額	33万円	80万円	チーム会の開催5回、検討会9回、講習会1回、研修会1回		

平成29年度普及活動外部評価会  
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

幡多農業振興センター農業改良普及課

(○評価会で発言、●評価用紙に記載)

評価項目		評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制	・課内（所内）の分担	●ベテラン、若手が多く、中堅が少ない。エリア毎で人員が配置されており、エリアにおける対応が可能となっている。
	・活動の進ちょく管理の体制	●チーム会、職員会で進捗管理ができている。また、情報共有することで連携が保たれており評価できる。
	・普及指導員の資質向上の取組	●国や県の研修が有効に活用されている。新任者対象のOJTなど適正。 ●職場研修の研修内容の説明が少なく、わかりにくいところがあった。 ●ICT活用も積極的に取り組まれている。
普及指導活動の計画	・普及課題の設定	○新しい課題で長期的な取り組みなので、今後に期待したい。 ○農業公社の搾汁施設など素晴らしい取り組みである。生産技術面では、未完成な部分があり技術者を入れ、若木の育成から研修する必要がある。 ○ユズの他産地との競合に問題はないか？ →加工品は競合するが、青果は園芸連で統一出荷しているので全国出荷できる。
	・対象の設定	●ユズを対象とした明確な理由があり、設定された目標はメッセージ性が強く、わかりやすい。
	・関係機関との連携	○生産拡大の取組はわかったが、加工の取組について関係機関との連携などを紹介してほしい。 ●農業公社との連携により、新規就農者支援チームが結成され取り組まれている。 ●村、関係機関と連携が図られており、目標の設定もできている。
	・目標設定	●目標設定を現状に合わせて変えていくことは評価できる。
普及指導活動の成果	・活動の経過	●普及指導員が、目標達成に際してどう関わったのか、わかりにくい。
	・実績（活動の結果）	●普及活動の目的に沿った視点でまとめられている。 ●目標に達成できなかった課題は、理由を示して欲しい。
	・成果（目標達成状況）	○ユズ園のリースシステムまで構築できている。今後の課題も明確であり、先進的な事例でモデルになる。 ●新規就農者確保、リースシステムも組み立てられており、さらなる生産拡大が期待できる。 ●目標達成しなかったものの、前年比増と成果を着実に上げている。
	・結果の周知	
外部評価、総合所見等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●平地で機械化を進め、ユズの産地化を図る取り組みはモデル的な取り組みで成果が期待される。生産を向上させ新規就農者も確保できるよう、さらに取り組みを進めてもらいたい。加工の取り組みについても、出来るところから表に出して進めていけばよいと思う。</li> <li>●目標設定、対象の設定など数値の根拠があいまいでわかりづらい課題がある。</li> <li>●目標設定根拠をしっかり持っておくことが重要。</li> </ul>		